

小さな病院の特定ケア看護師が持つ大きな夢

湯沢町保健医療センター 一般病棟 特定ケア看護師 加藤裕子

湯沢町保健医療センターとは？

初めまして、湯沢町保健医療センターの特定ケア看護師 加藤裕子と申します。

湯沢町保健医療センターは新潟県と群馬県の県境にある山深い町、湯沢町にあります。人口8,000人に満たない、新潟県内全30市町村の人口ランキングでも25位という小さな町です。スキーと温泉の越後湯沢というご存じの方も多いかもしれません。当院は湯沢町唯一の病院であり、地域包括ケア病棟40床、介護医療院40床を有しています。その他にも訪問診療、訪問看護も行っています。“地域のかかりつけ病院”、“在宅時々入院”の切れ目のない医療を目指しています。

当院での特定ケア看護師の役割

特定ケア看護師は団塊の世代が後期高齢者となり高齢化が加速度的に進む2025年に向けて、さらなる在宅医療との推進を図るために制度が始まりました。湯沢町の高齢化率は40%に達しています。すでに国の2025年問題に直面している、あるいはそれ以上の状況になっていると考えられます。湯沢町で生活する人々を支えるために、特定ケア看護師の養成は急務でありました。

また片手で数えられる人数しか医師のいない当院では、医師が外来や往診で手が離せないときにはどうしても患者を待たせてしまうことがあります。タイムラグのない速やかなケアとケアの提供はもちろん、医師の業務の一部をタスクシフトすることが求められていました。そ



湯沢町保健医療センター 病院正面（3月）

のような中で私は当院初の特定ケア看護師となるべく、JADECOMアカデミーNP・NDCセンターにおいてNDC第8期生となり他施設実習を含む1年の研修を終えました。今は自施設での臨床研修の真ただ中にいます。

心に残った臨床研修

現在私は医師に指導を仰ぎながら、外来から入院までの一貫した診察や治療を中心とした研修を行っています。また介護医療院や特別養護老人ホームといった病院以外の場所でも回診と必要な処置(特定行為を含む)を行っています。

その中でも心に残った研修は特別養護老人ホーム(以下、特養)での褥瘡管理です。COVID-19罹患後にADLが低下し踵部に深い褥瘡ができた方について特養のスタッフから相談されました。特定行為である壊死組織の除去などの治療を行うと同時に、施設スタッフへ除圧と保清の大切さの周知を図り、具体的な処置の方法の指



検査技師さんとエコーの特訓中



一般病棟の回診風景

導を行う必要がありました。昨年の市立奈良病院での実習で教えていただいた褥瘡管理…改定 DESIGN-R[®]2020を用いた評価、壊死組織の除去のさまざまな方法、自宅(施設)でできる処置…を資料と経験をフル活用して、特養でできる管理を行いました。今あるもので工夫してできることは何か？最大の効果を得るために何ができるか？左手に褥瘡の資料を詰め込んだiPad、右手にアドソン鑷子と剪刀を握りしめ毎週金曜日の回診に向かいました。少しずつ良くなっていく褥瘡に施設スタッフと小躍りしたり、治りが停滞してしょんぼりしながらもさまざまなことを試してみたりしながら半年が過ぎました。あんなに深かった褥瘡は、今ではほぼ上皮化することができました。最新の資材がなくとも工夫次第で深く治りにくかった褥瘡が改善するのかと驚くとともに、辛かった研修も投げ出さずによかったと心から思いました。

これからのこと

私はまだまだ初心者マークの特定ケア看護師ですが、最終的には病院から地域に飛び出していく特定ケア看護師になるという夢があります。地域で生きる人々にとって病院は人生で一度きりの場所ではなく、生活の延長線上、あるいはその一部であると考えています。そういった地続きの関係の中で人々と医療を自然に結びつけることのできる活動をしていきたいと思っています。例えば温泉施設での出張保健室や在宅療養中の方の希望を叶えるお手伝いなど、してみたいことはたくさんあります。特定ケア看護師の歴史は10年足らずでありさまざまな可能性を秘めています。地域医療を支える特定ケア看護師として、これまでにないような新しい道も切り開いていきたいです。



ナースステーションからの風景